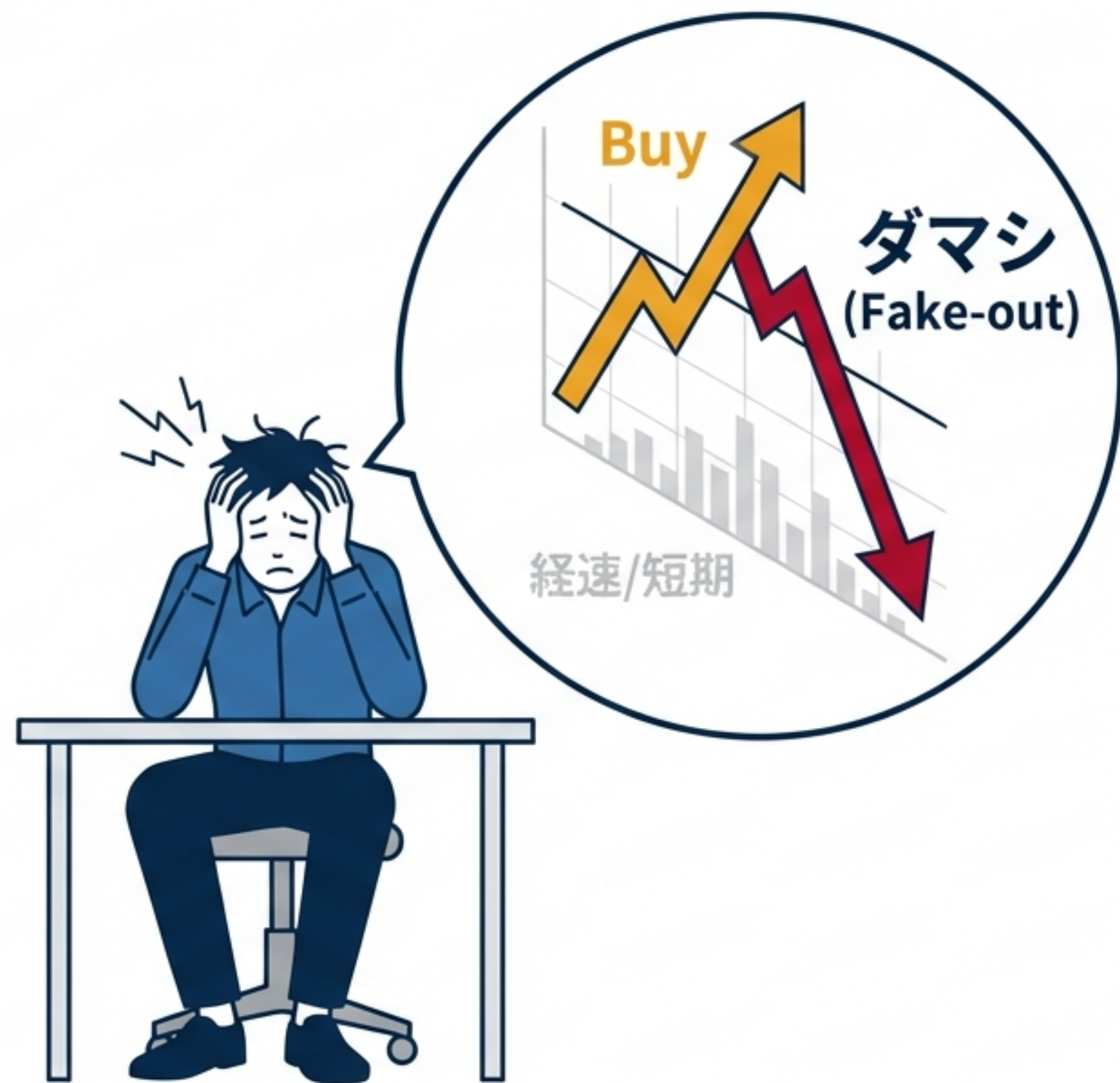


# FXの「ダウ理論・サイクル理論」 が機能しない本当の理由

5分足のノイズを捨て、日足の構造を味方につける「日足×4時間足」完全攻略

# 「5分足・15分足だとダマシばかり...」 そう感じていませんか？

- ⚙️ • 教科書通りに「ダウ理論」や「サイクル理論」を使っているのに、実戦ではなぜか勝てない。
- 📈 • 「高値更新だ！」と思って飛び乗ったら、次の瞬間に暴落する。
- ⚙️ • 「教科書と違うじゃん！」とチャートの前で頭を抱える経験。



# 衝撃の真実：その理論は「日足ベース」で作られています



実は、ダウ理論もサイクル理論も、本来は日足（Daily Chart）を基準に設計されたものです。短期足（5分・15分）で機能しないのは、理論の欠陥ではなく「使う場所」の間違いです。

「短期足でうまくいかないのは、当たり前なんだ。」

# 誤解されていませんか？ダウ理論は「エントリー」ではなく「地図」です



✕ 間違い：高値を抜けたらすぐエントリーという合図



○ 正解：今、相場がどのフェーズにあるか（構造認識）を確認するための枠組み

**ダウ理論は、相場の現在地を知るための羅針盤です。**

# 短期足の「ノイズ」 vs 日足の「意思決定」

## Noise (ノイズ)

- ⦿ ・一時的な注文の偏り
- ⦿ ・アルゴリズムによる突発的な上下
- ⦿ ・結果：ダウの波形が歪み、ダマシが頻発



5分足・15分足

## Signal (シグナル)

- ✓ ・市場参加者の「最終的な意思決定」が凝縮
- ✓ ・無意味な上下動が平均化される
- ✓ ・意味のある高値・安値だけが残る

# サイクル理論と「人間のリズム」



サイクル理論は、資金の循環や市場心理の波（=人間の行動リズム）を捉えるものです。

- ✕ **短期足の限界:** ロンドン・NY時間の切り替わりや突発ニュースで周期が崩壊しやすい。
- ✔ **日足の優位性:** 「1日」という人間が意思決定する自然な単位であるため、押し・戻りのリズムが綺麗に表れる。

# 日足は完璧な「地図」だが、弱点もある



「じゃあ全部日足でやればいい？」 → それだと実戦では困ることもあります。

## 日足のデメリット:

1. エントリーポイントが大雑把になる
2. 損切り幅 (Stop Loss) が広くなりすぎる
3. トレードチャンスが極端に少ない

➡️ そこで登場するのが、日足の精度を補完する「4時間足」です。

## 4時間足の正体：日足の「内部構造」を見る顕微鏡



- **日足 1 本 = 4時間足 6 本**

- 4時間足は、日足という「大きな波」の中身を分解して見るためのツール。
- 日足で「押し目」と判断した場所で、4時間足を使って「下げ止まり」や「小反転」を探します。



# 実践ケーススタディ：ユーロドル（EURUSD）

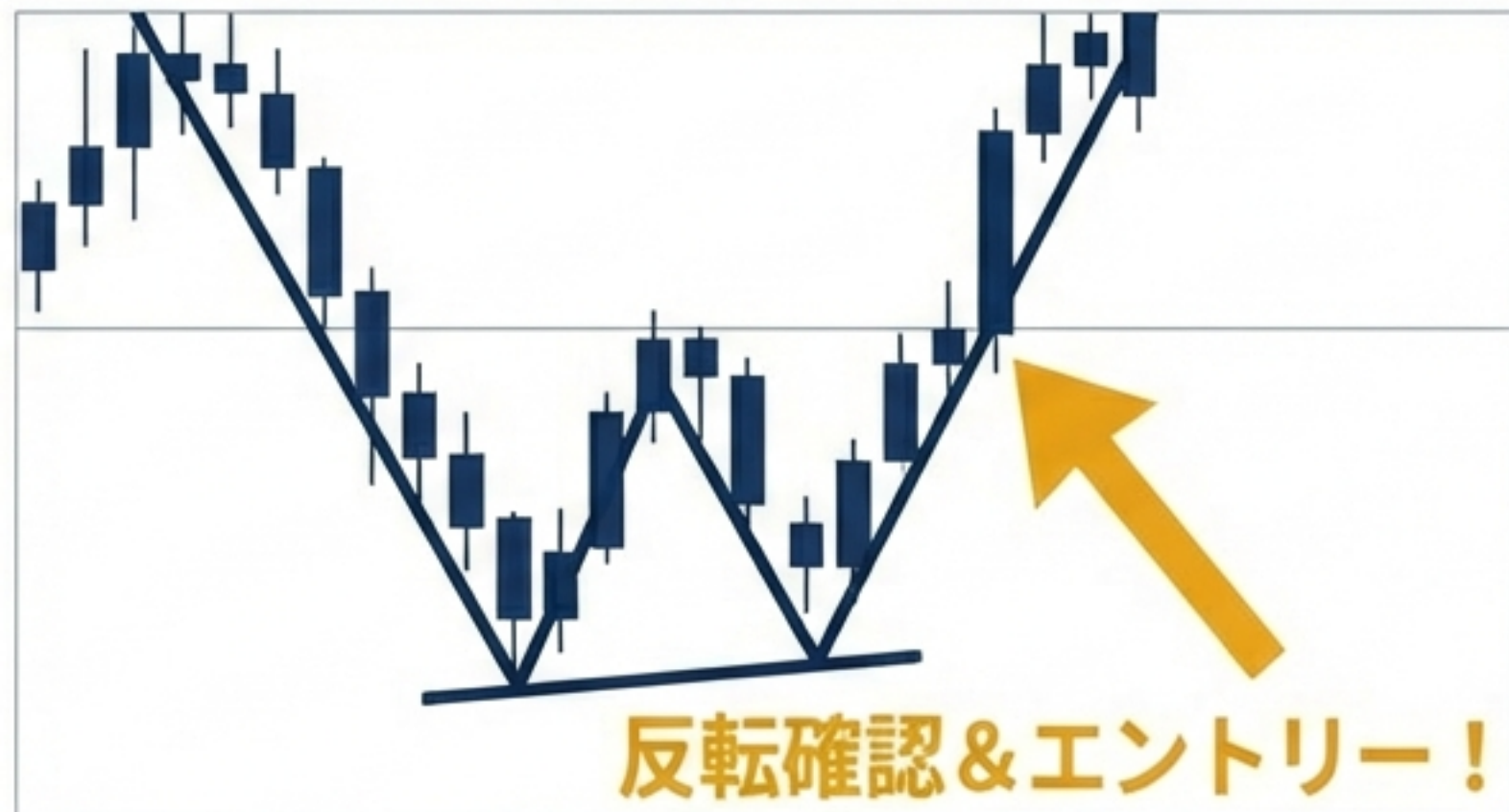
## Daily Chart (Map)



### Step 1: 日足（司令塔）

上昇トレンド継続中。直近高値更新後、1.1150付近まで押している。「買い目線」決定。

## 4H Chart (Execution)



### Step 2: 4時間足（実行部隊）

1.1150付近での「下げ止まり」を確認。小さな安値切り上げ（ミニ・ダウ）が発生。

# 役割分担の明確化：戦略足 vs 執行足



## 日足（司令塔 / Strategy）

- ダウ理論で方向性を決める
- サイクルの現在位置を把握する
- 「買い」か「売り」かのシナリオを固定する



## 4時間足（実行部隊 / Tactics）

- 日足のシナリオを実行に移すタイミングを計る
- 押し目・戻りの具体的な形（チャートパターン）を観察
- 損切り幅を30~40pipsに限定してリスクを抑える

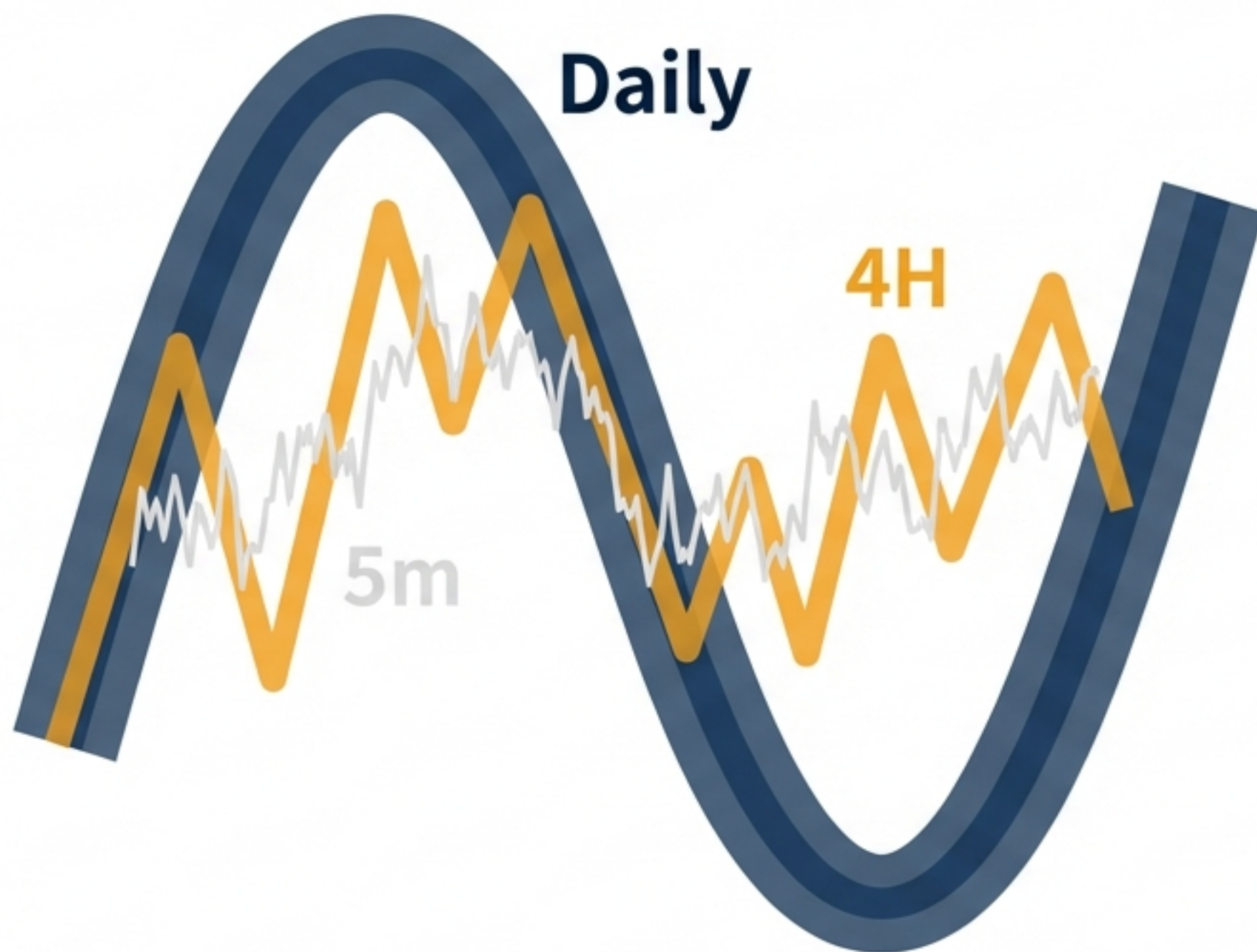
思考は日足、実行は4時間足。

# なぜ「4時間足だけ」ではダメなのか？



- 「日足を見るのが面倒」で4時間足だけを見ると、**木を見て森を見ず**の状態に陥ります。
- 4時間足単体では「大きな方向性」を見失い、逆行する波に巻き込まれやすいのです。
- **日足という「背骨」**があるからこそ、「4時間足で下がったら、それは買いのチャンスだ」と自信を持って判断できます。

# 本質は同じ：情報の「解像度」が違うだけ



大きく見れば、日足も4時間足も同じ「波動」を描いています。高値・安値の更新、トレンドの定義はどの時間足でも不変（フラクタル構造）。

## 違いは3つだけ

1. 情報量（細かさ）
2. 精度（ポイントの明確さ）
3. 実行のしやすさ

# 明日から使える「日足×4時間足」ワークフロー

## 1. 日足を見る

ダウ理論でトレンド方向を確認（構造認識）



## 2. シナリオ構築

「どこまで押したら買うか？」を日足レベルで想定



## 3. 4時間足へ移行

想定ポイントに到達した後のプライスアクションを監視



## 4. エントリー

4時間足での反転・構造変化を確認してトリガーを引く



この手順を守るだけで、トレードの迷いとストレスが激減します。

# 迷子になったら、日足に帰ろう



相場は思っているよりシンプルです。  
複雑に見えるのは、ノイズに振り回されて  
いるから。

「短期足で訳がわからない」と思ったら、  
一度日足に戻ってください。

## 日足で方向を決め、 4時間足で具体的に動く。

焦らずコツコツ、構造を味方につけた「大人のトレード」を始めましょう。